

信州大学留学生センター年報

第 1 号

1999. 4 ~ 2000. 9



信州大学留学生センター

「留学生センター年報」創刊にあたって

留学生センター長 内 藤 哲 雄

外国人留学生のための「日本語・日本事情」が正規の授業科目として開講されたのは、旧教養部において、今から15年以上も前のことである。当初はドイツ語の野中成夫教官（現工学部、現副学長）が担当していたが、実績が評価され昭和60年9月に今井敬子教官が、平成2年には徳井（坂井）厚子教官が採用された。その後も外国人留学生の増加が続き、経済学部、工学部、繊維学部、医学部、人文学部に留学生担当教官が配置となった（医学部は学部内措置）。

しかしながら留学生への支援・国際交流の基幹となるべき留学生センターの設置は、歴代の学長らの尽力にもかかわらず、学部が分散していることもあり容易ではなかった。信州大学の学部は隔地に分散しており、人文・経済・理学・医学の4学部と事務局のある松本市からJR等の鉄道を利用すると、農学部のある南箕輪村まで50km、教育学部と工学部のある長野市までが65km、繊維学部のある上田市までは80kmである。橋本 功副学長（前副学長、人文学部）のもとに準備委員会が構成され、学部分散型大学における留学生センター設置の意義を確認し、学内措置として設置にこぎ着けたのは平成9年12月のことである。設置場所は、本部事務局のある旭キャンパスの厚生施設旭会館の2階であった。平成10年暮れに文部省より内示があり、平成11年4月1日に省令施設として正式に発足することとなった。センター教官として上條 厚（日本語教育担当）、村田 明（日本語教育担当）の2名の教官が異動し、センター長には内藤哲雄が併任となった。さらに平成11年6月には村瀬さな子（相談業務担当）、佐藤友則（日本語教育担当）の2名の教官が、平成12年4月には藤沢文人（日本語教育担当）教官が採用となった。

分散する学部での日本語教育は「日本語補講」を中心としているが、中級コースを全地区に完備するなどの充実が試みられた。また相談業務に関しては、センター教官による他キャンパスへの巡回を開始した。さらに、共通教育棟南校舎2階に移転した留学生センターと各キャンパスに、留学生がEメールで通信するためのパソコン、内線を利用したテレビ電話を整備した。「留学生センターNEWS」も年数回発行している。新たに始まった大学院入学前の日本語研修（6カ月）コースでは、各学部・大学院研究科の留学生も受け入れている。他方では、学部留学生担当教官らとの連絡会が設置された。センター教官や留学生担当教官らの教育研究の成果を公刊するための「留学生センター紀要」も、設置初年度から発行している。留学生関係の事務は、センターと同時に新設された留学生課を中心に組織化が進んでいる。

全学のご支援を得て留学生センターの業務は充実・発展を続けているが、センターのおかれた位置づけを定期的に再確認し、現状を反省しながら、業務の改善と開発を計らねばならない。来年度の4月からは新たに、授業を英語で行う短期留学プログラムの開設が検討されている。

「留学生センター年報」の発刊を通じて業務の再構築を繰り返し、信州大学の国際交流の発展に貢献していくことが、センター教官一同の願うところである。全学によるさらなるご指導とご支援を賜りたい。

平成13年3月

目 次

「留学生センター年報」創刊にあたって

目 次

信州大学留学生センター設置の経緯	1
信州大学留学生センター概要	4
◦ 信州大学留学生センター組織図	4
◦ 信州大学留学生センター構成員	4
◦ 信州大学留学生センター内業務	4
全学各種委員会	4
出版・広報	5
授 業	5
交流・相談	5
学事（行事）一覧	5
日本語教育	6
◦ 日本語研修コース	6
平成11年度後期	6
平成12年度前期	8
◦ 日本語・日本事情	11
◦ 日本語補講	15
相談・指導業務	17
活動記録	22
◦ 留学生ガイダンス	22
◦ 平成11年度～12年度前期信州大学留学生センター活動記録	22
交流事業	24
◦ 長野県留学生交流推進協議会	24
◦ 第10回留学生日本語スピーチコンテスト	24
◦ 信州の留学生に本を贈る会	24
資 料	25
◦ 留学生数	25
◦ 交流協定締結大学一覧	29
◦ 宿所情報	30
◦ 日本語研修コース修了者	31
◦ 信州大学留学生センター規定	32
◦ 信州大学留学生センター管理委員会規定	34
◦ 信州大学留学生センター運営委員会規定	36

信州大学留学生センター設置の経緯

教育システム研究開発センター教授
前副学長（学生担当）

橋 本 功

1. 3名から出発した本学の留学生受け入れ

信州大学には現在300名近くの留学生が学んでいる。記録によると、信州大学が初めて公式に留学生を受け入れたのは1961年である。工学部（2名）と繊維学部（1名）が同じ年度に受け入れを開始した。このように信州大学の留学生受け入れは、学部主導で出発した。その後、1966年には教育学部が、1968年には農学部が、1969年には人文学部が、1974年には医学部が、そして、1980年には経済学部と理学部がそれぞれ留学生の受け入れを開始した。全学部の受け入れ体制が整ったこの年は信州大学の留学生数がようやく二桁の13名になった年でもある。その後信州大学の留学生数が急速に伸び、8年後の1988年には104名に、その4年後の1992年には222名に、さらに次の4年後の1996年には325名に達した。

2. 他大学に遅れをとる本学の留学生センター設置とその原因

留学生数が200名を越えた大学に次々と留学生センターの設置が許可されているにも拘わらず、留学生数が300名を越えた本学には留学生センターの設置を本省に概算要求する準備さえも整っていなかった。原因は教養部改廃の際の「日本語・日本事情」担当教官とポストの配置にあった。2名の「日本語・日本事情」担当教官ポストは、将来の留学生センター設置に備えて文部省が信州大学教養部に配置したポストであった。しかし、教養部改廃のとき困難な要因が多くあったためであろう、結果的には2名の「日本語・日本事情」担当教官が他の教養部教官と同じように分属し、教育学部教官になった。そのために、信州大学には留学生センター設置の基礎になる「日本語・日本事情」担当教官とそのポストは文部省から配置されていたにも拘わらず、学内では、2つの教官ポストは留学生センター設置のためのものでなくなってしまったのである。この解釈の仕方には異論の向きがあるかもしれない。表現の仕方がどうであろうと、内と外とのこの矛盾を解消しないことには、留学生センターの設置を文部省に概算要求できない事態に陥っていたのである。

1996年5月の評議会に、当時学生部長であった私は、留学生センター設置のための概算要求をすることを評議会に提案した。議論が各論に移り2名の教官ポストの確保が話題になると、深刻な学内事情を反映し、「日本語・日本事情」担当教官のポストの扱い方について激しい言葉が飛び交った。結局のところ、「総論は賛成であるが、自学部ポスト減に関わるかもしれない各論には反対」というのが評議会の空気であった。このような状況下では、その年の概算要求は諦めざるをえなかった。

前学長の小川先生は、「信州大学の国際化と今後の発展のためには、留学生センターの設置はなんとしても実現しなければならない。」という強い決意を抱いておられ、その後も、労を惜しまず、ねばり強い議論を続けられた。

3. 学内措置の留学生センター設置

学内的に未解決の問題はあるが、一方で省令の留学生センターが実現するまでの措置として、8学部の教官と学生部の事務官が兼務する学内措置の「留学生センター」を1997年12月にオープンさせた。このセンターは、留学生センター長（学生担当副学長：筆者）、教育学部所属になった2名の「日本語・日本事情」担当教官そして8名の留学生指導担当教官で組織され、運営は新設の「留学生センター運営委員会」が当たることになった。長年留学生の相談業務に携わってきた各学部の教官1名が、留学生指導担当教官として留学生センター教官を兼務した。留学生指導担当教官は月曜日から金曜日までの一定時間、交代で旭キャンパスにある旭会館二階に設置した留学生センターのオフィスで待機し、いつでも留学生の相談に応じられる体制を敷いた。それ以外にも、電話やe-mailを相談体制の中に組み込んだ。

また、このセンターは、外国留学を希望する日本人学生の相談に応じるためのデータ・ベースの構築も目的とした。

4. 「日本語・日本事情」担当教官とポスト

「日本語・日本事情」担当教官ポストの問題解決に明るい光が見えてきたのは、教育学部教授会の全学的視野に立った議論と、そこから引き出された留学生センター設置に貢献しようとする結論であった。教育学部教授会は「教育学部に所属した2名の「日本語・日本事情」担当教官のうち、1名の教官とそのポストを留学生センター設置のための要員とする」という最終結論を出した。問題は、もう一つのポストである。これについては、長い困難な議論の末、「当分の間、人文学部から助教授ポスト1つを留学生センター設置のために借用する」という解決策を得た。ただし人文学部のポストはすべて埋まっていたので、これは教官の配置換えを伴うことを意味する。この解決策は、人文学部教授会の大所高所からの議論と決断だけではなく、現留学生センター助教授（前人文学部助教授）村田教官の厚いご理解と彼の信州大学教官としての強い使命感があったからこそ実現したのである。これによって本学はようやく留学生センター設置を概算要求できる環境が整ったのである。

5. 留学生センター設置の概算要求

留学生センター設置の環境が整う以前から、国際交流委員会留学生専門委員会は、留学生センターの青写真を作成してきた。青写真の柱は次の五項目であった：①日本語教育、②留学生の相談・指導、③短期留学プログラムの実施（英語による授業）、④日本人学生に対する留学情報の提供、⑤留学生課の設置。これらの内、①については国際交流委員会留学生専門委員会の元に作られたワーキング・グループが日本語教育の実施案を作成し、国際交流委員会で承認された。また、③についても、英語を共通語とする授業を各学部が提供することが国際交流委員会で承認され、留学生専門委員会が「各学部が最低1コマの授業を担当する」案を作成した。この青写真をもって文部省と交渉を重ねた。その結果、③は留学生センターの設置が実現した後、早々に着手するようにとの指導があった。そのために③は概算要求項目から消えたが、留学生センター設置後の宿題として残された。

6. 留学生センターの設置と共通教育センターでの「間借り」

1998年末に念願の信州大学留学生センター設置の内示があり、2000年4月1日に省令施設の留学生センターが設置される運びとなった。それを受けて留学生センターの設置場所を決定する手続きに入った。なぜならば、留学生センターと留学生課が入る建物の建築は、先行大学の例から見ても、設置後数年を経ないと実現しないことはわかっていたからである。本学ではこれも難関な手続きの一つであった。私どもは、人文学部・経済学部共通棟が竣工し、共通教育センターにあった経済学部教官のすべての研究室と人文学部教官の一部の研究室が新棟に引っ越すのを待って、留学生センターの建物ができるまでの間、共通教育センターに「間借り」をする案を持っていた。この案を実現すべく前小川学長が共通教育センター長と話し合いの場を持ち、ようやく「間借り」案が承認される運びとなった。

7. 留学生センターの教官人事

1999年4月1日に省令施設としての留学生センターを立ち上げるために、1999年2月に学内措置の留学生センター長が留学生センター設置準備委員長に就任して、留学生センターの人事作業に入った。概算要求書作成当初は、要求教官定員数は5名であったが、我が国の経済状況を反映し1名削られ4名になった。ただし、数年の間に1名の教官定員を補充すべく努力するとのことであった。

1999年4月1日に省令施設としての留学生センターを立ち上げるために、まず留学生センター長が選出され、内藤哲雄人文学部教授が初代のセンター長に就任された。次いで、定員4名の留学生センター教官の内、2名は本学にすでに配置されていた「日本語・日本事情」担当教官ポストである。この2名のポストについては、学内公募という形式をとり、上条教官と村田教官が承認され4月1日付けで留学

生センターに配置換になった。並行して、残り2名の公募手続きを開始していた。この2名については6月1日就任の計画が承認されていたので、公募は設置準備委員長が担当し、残りの手続きは4月1日付けで就任する内藤留学生センター長に委ねられた。

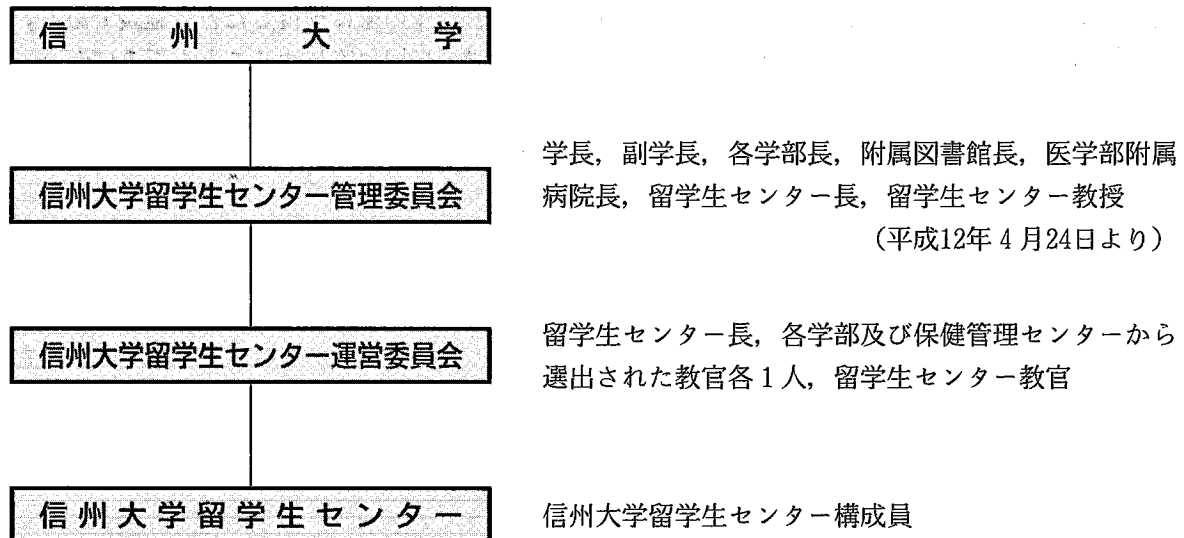
8. 終わりに

信州大学留学生センターは、以上の経緯に見られるように、難産の末に獲得した省令施設である。この施設が信州大学の国際化にますます大きく貢献し、信州大学の発展に寄与することを祈るばかりである。

信州大学留学生センター概要

信州大学留学生センター組織図

構 成 員



○信州大学留学生センター構成員（平成12年10月1日現在）

センター長（併任）	人文学部教授	内 藤 哲 雄
（専 任）	教 授	村 瀬 さな子
	教 授	藤 沢 文 人
	助教授	上 條 厚
	助教授	村 田 明
	講 師	佐 藤 友 則
（非常勤）	講 師	金 子 泰 子（予備教育担当）
	講 師	中 村 純 子（予備教育担当）
	講 師	下 平 菜 穂（予備教育担当）
	講 師	合 津 美 穂（予備教育担当）
	講 師	村 山 啓 子（補講担当）
	講 師	青 柳 にし紀（補講担当）
	講 師	山 本 もと子（補講担当）

事務担当

学生部留学生課	留学生課長	林 清 治
	留学生係長	藤 本 哲 生
	留学生係主任	松 崎 博 文
	留学生センター係長	林 實

○信州大学留学生センター業務

全学各種委員会

総合情報処理センター運営委員会

計算機運用部会・仕様策定委員会

佐 藤 友 則

広報委員会
セクハラ委員会

上 條 厚
村 瀬 さな子

○出版・広報

- 留学生センター紀要

上 條 厚
村 田 明

信州大学留学生センター紀要第1号を2000年3月に発刊

- 留学生センター年報

藤 沢 文 人
村 田 明

信州大学留学生センター年報第1号（本号）を作成

- 信州大学留学生センター・ニュース

藤 沢 文 人

信州大学留学生センター・ニュース第1号を2000年1月（村瀬さな子編集）、第2号を2000年5月に発刊

- 各種パンフレット

上 條 厚

- 留学生指導教官用ハンドブック

村 瀬 さな子

- ホームページ作成・管理

佐 藤 友 則

藤 沢 文 人

信州大学留学生センターホームページを1999年9月より開設・管理している。

○授 業

- 日本語研修コース（予備教育）

藤 沢 文 人

佐 藤 友 則

- 日本語・日本事情

上 條 厚

- 日本語補講

上 條 厚

- 韓国からの理工系学部留学生受入

藤 沢 文 人

佐 藤 友 則

2001年10月の受入れに向けて調査・企画中

- 短期留学プログラム

村 田 明

2001年4月の実施に向けて授業計画作成中

○交流・相談

- 相談業務

村 瀬 さな子

- 交流事業

佐 藤 友 則

村 瀬 さな子

村 田 明

- 留学生担当教官連絡会

村 瀬 さな子

○学事（行事）一覧

村 田 明

信州大学留学生センターの活動を記録する。

日 本 語 教 育

日本語研修コース

○平成11年度後期（第1期）

〔期 間〕 平成11年10月～12年3月

〔学習者〕 2名

ブラジル 教員研修生 配属先 山梨大学教育学部 女性

中 国 教員研修生 配属先 信州大学教育学部 女性

〔コース(週時間割)〕 1クラス

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材①	主教材①	主教材①	主教材①	復 習①
2	主教材②	主教材②	主教材②	主教材②	復 習②
3	漢 字	漢 字	×	漢 字	週例テスト
4	×	総 合	×	Tutorial	Feedback

1 時限目 + 2 時限目 9 : 30～12 : 30

3 時限 13 : 30～15 : 00

4 時限 15 : 10～16 : 40

（主 教 材）

主教材として『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』（以下『みんな』と略）を使用した。この期の学習者は2人とも既習者だったため、『みんな』の1～7課までは復習の意味で早く指導し、8課以降は一日一課のペースで進めた。そして『みんな』50課修了後は、プロジェクト・ワークを中心にし、実際の日本社会での日本語使用を習得させようとした。

（漢字教材）

『Basic Kanji Book vol.1&2』を使用した。ブラジル出身の学習者の習得度に配慮しながら進め、34課まで指導した。中国出身の学習者は、日本語での読み方を学習しながら自力で教材を進めていた。

（総 合）

学期前半は簡単な文章の読解能力養成を目的として、『みんな』の「問題」にある文章、または『タスクによる楽しい読み』などを利用して指導した。後半は、読解のみでなく作文にも重点をおき、日頃のトピックや自分の専門分野に至るまで幅広い範囲での文章作成をさせた。その後、コメントをつけて返却し、学習者に修正・再提出させた。

（復 習）

主教材で指導した文法・文型の復習を中心に、漢字の復習も行った。午後に行われる週例テストの事前準備も兼ねていた。

（週例テスト）

その週に指導した主教材の課ごとに筆記テストを作成し、復習と強化の意味でテストを実施した。テストは、それぞれの課の文法・文型・新出語彙をできるだけ網羅するように、しかしそれほど難易度が高くないように配慮して作成した。

(Feedback)

週例テスト終了後、全く同じ問題用紙を配布し、それをチェックしながらさらに復習を行った。特に、間違えた重要な文型などについては、再度教科書で指導したりもした。

(Tutorial)

学習者1名に教師1名がついて、学習者と相談のうえ、指導を行った。指導内容は、専門語彙の紹介、ロールプレイによる会話練習、作文による語彙・文型指導など様々である。また学習指導のみならず、精神面の相談にのったり、進学のための情報提供や資料作成援助をすることもあった。

[コース(学期)]

10月初旬	学習者の受け入れ
10月12日～14日	オリエンテーション
10月15日	開 講 式
10月16日	授 業 開 始
11月10日	研修旅行（奈良井・妻籠へ）
12月22日	中間テスト
12月24日～1月7日	冬 休 み
2月10日	修了テスト
2月14日～18日	プロジェクトワーク1（日本人のお宅訪問）
2月21日～24日	プロジェクトワーク2（街歩き）
2月28日～3月9日	発表の準備
3月10日	発 表 会
3月26日	閉 講 式

(受け入れ)

学習者が松本駅に到着する日時の連絡を受け、センター教官とチューターの留学生が車で駅まで迎えに行った。その後、一時的に信州大学旭会館に宿泊させ、ブラジルの学習者は民間のアパートへ、中国の学習者は信州大学思誠女子寮に入居させた。また、到着翌日、松本市役所に出向き、外国人登録と国民健康保険の申請をし、約1週間後に外国人登録証明書を入手後、銀行口座を開設した。

(チューター留学生)

チューターの留学生は、学習者の母語を解すること、信州大学の事情に通じていることなどを考慮し選考した。松本駅での受け入れ後も、買い物への同行、生活面での日本事情の指導、オリエンテーション時の通訳、コース開講後の通訳など多方面で支援活動をした。

(テ ス ト)

学習者の評価に関わるテストは、中間テストと修了テストの2つであった。毎週行うテストは評価には関係せず、復習を目的として行った。中間テスト・修了テストとも筆記試験のみで、『みんなの日本語初級』と『Basic Kanji Book』の学習範囲から出題した。

(評 価)

学習者の最終評価は、このコースに関わった専任教官が判定会議を開いて行った。評価対象としたのは、上記の2つのテスト結果と、通常の授業・生活面での日本語能力である。評価は、「通常のコミュニケーション能力」などの4項目それぞれにおいて、A～Dまでの四段階で行い、その結果は、コメントをつけて配属先の指導予定教官へ連絡した。

(プロジェクトワーク)

プロジェクトワークは、『みんなの日本語初級』修了後、実際の日本語使用場面における能力を身

につけさせることを目的として行った。最初に行ったのは、「日本人のお宅訪問」である。2名の日本人女性に協力を依頼し、学習者を訪問させてもらった。訪問前に、日本のお宅訪問のマナーを指導し、どんな内容を質問するか考えさせた。2回目に行ったプロジェクトワークは松本の街歩きであった。松本の中心地の白地図を配布し、有名な店・寺などの名前を付記し、電話帳で店舗等の営業時間・公開時間などを確認させた後、街に実際に行かせて白地図を作成させた。

(発表会)

この発表会は、コースの最後に、日本人の聴衆の前で日本語で、自分の伝えたいことを発表させるものである。この期の学習者は2名とも教員研修生であったため、発表内容は、自国の紹介と自国の教育制度の説明および自分が所属する学校の説明であった。発表の持ち時間はそれぞれ20分で、Microsoft Powerpointでスライドを作成し、プロジェクタで投影しながら発表を行った。日本人の聴衆は30名ほどであった。

○平成12年度前期（第2期）

[期 間] 平成12年4月～12年9月

[学習者] 8名

ブラジル	大学院研究生	山梨医科大学進学	女性
イラン	大学院研究生	都留文科大学進学	男性
バハレーン	大学院研究生	山梨大学工学部進学	男性
イラン	大学院研究生	信州大学繊維学部進学	男性
ベラルーシ	大学院研究生	信州大学繊維学部進学	女性
マレーシア	大学院研究生	信州大学工学部進学	男性
エジプト	大学院研究生	信州大学医学部進学	男性
ネパール	大学院生（学内公募）	信州大学理学部所属	男性

[コース(週時間割)] 2クラス

Aクラス（初級学習者対象）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	復習①	主教材①	主教材①	主教材①	主教材①
2	復習②	主教材②	主教材②	主教材②	主教材②
3	週例テスト	漢字	漢字	Tutorial	漢字
4	Feedback	総合	×	×	Tutorial

1時限目＋2時限目 9：30～12：30

3時限目 13：30～15：00

4時限目 15：10～16：40

(主教材)

主教材は、前期同様『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』を使用した。この期はゼロ学習者が多かったため、ひらがな・カタカナの指導から始めた。コース修了と主教材修了がほぼ重なるようにコース設定をした。

(漢字教材)

前期同様『Basic Kanji Book vol.1 & 2』を使用した。

(総合)

日常の会話能力養成を目的として、状況に応じた発話(会話)練習を行った。毎時間NHK放送研修セ

ンターが制作したビデオ教材『日本語見る・聞く・話す』を導入に使い、特定の単語類（家庭の中にあるもの、店、職業、食べ物等）、構文（挨拶に使われる表現、買い物表現から丁寧表現、尊敬表現、受身表現、使役構文といった文法事項中心の構文類に至るまでの色々な面から見た特徴的文型）を使った応答練習を中心に、各研修生の興味のある話題についての会話や作文指導も随時おこなった。

（復 習）

主教材で指導した文法・文型の復習を中心に、漢字の復習も行った。

（週例テスト）

筆記テストを作成し、復習と強化の意味でテストを実施した。

（Feedback）

週例テストを休憩時間中に採点し、それを研修生に返し、同じ問題にもう一度答えさせた。間違った場合は、研修生全員に考えるように指示した。こうすることによって、研修生同士による日本語の難しい点の確認や、各研修生の弱点の補強につながった。

（Tutorial）

この期は、クラスの学習者が6名と多かったため、1時限に1名の教師が2名の学習者を指導するようにした。指導の内容・方法は平成11年度後期と同様である。

Bクラス（中級学習者対象）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材①	ビ デ オ	主教材①	ビ デ オ	主教材①
2	主教材②	ビ デ オ	主教材②	ビ デ オ	主教材②
3	Tutorial	Tutorial	Tutorial	Tutorial	Tutorial
4	Tutorial	Tutorial	×	×	×

1時限目＋2時限目 9：30～12：30

3時限目 13：30～15：00

4時限目 15：10～16：40

（主 教 材）

主教材は『日本語中級 J 501』と『総合日本語中級』の二種類を使用した。『日本語中級 J 501』では、主に読解と漢字の指導をし、『総合日本語中級』では、主にニュースの聴解と新聞を題材とした会話の練習をした。また、『待遇表現』と『ロールプレイで学ぶ会話』を副教材として使用し、実際場面に即した会話表現ができるように指導した。

（ビ デ オ）

ビデオの主教材としては、中級用ビデオ教材である日本語教育映像教材（中級編）『初めて会う人と』と『NHK週間ニュース』を使用し、様々なトピックについて聴解と会話を行った。また、映画などのビデオを使って話し言葉特有の表現も学習させ、日本的な文化や人間関係についても考えさせた。

（Tutorial）

平成12年度前期の日本語研修コースでは、中級日本語学習者の数が少なかった（2人）ということもあって、できるだけきめの細かい指導を心がけた。そこで、チュートリアル時間は基本的に留学生の希望を受け入れ、文学に関連した日本語学習と論文作成に関連した日本語学習をチュートリアルの時間の基本的な指導項目とした。

[コース(学期)]

4月初旬	学習者の受け入れ
4月10日～13日	オリエンテーション
4月14日	開 講 式
4月17日	授 業 開 始
4月28日	プロジェクトワーク 1 (街歩き)
6月15日	中間テスト
6月16日	研修旅行 (飛騨高山へ)
7月4日～5日	Aクラス：日本人お宅訪問の準備 Bクラス：伊那リサーチと諏訪大社に訪問
7月25日～27日	プロジェクトワーク 2 (日本人のお宅訪問)
7月28日	プロジェクトワーク 3 (茶道と華道の実践)
7月31日～9月3日	夏 休 み
9月11日	修了テスト
9月12日～18日	発表の準備
9月19日	発 表 会
9月26日	閉 講 式

(受け入れ)

ほぼ平成11年度後期と同様であるが、人数が多かったため、専任教官が担当を決めて駅に迎えに行った。そして、駅から直接松本市役所へ赴き、外国人登録と国民健康保険の申請を一日で済ませるようにした。また、チューター留学生を活用した点は平成11年度後期と同様である。

(テストおよび評価)

平成11年度後期と同様、中間と修了の2回のテスト結果および通常の日本語能力をもとに判定会議で評価をし、進学先の指導予定教官に連絡した。

(プロジェクトワーク)

プロジェクトワークは、松本の街歩きと日本人のお宅訪問、そして茶道と華道の実践という3つを行った。中級学習者に関しては、それぞれの専門に近い会社または寺社訪問もしたため、4つのプロジェクトワークに参加したことになる。

(発表会)

発表会は、35名ほどの日本人聴衆を前に行われた。前期同様、スライドを作成してプロジェクトで投影しながら、日本語で発表した。発表プログラムは以下の通りである。

- ①バハレーンの旅 (バハレーン)
- ②ベラルーシの冬に鶴がどこかへ飛んでいきます (ベラルーシ)
- ③ブラジルの紹介 (ブラジル)
- ④イラン・イスファハン (イラン)
- ⑤ペルセポリス (イラン)
- ⑥ネパールの観光 (ネパール)
- ⑦マレーシアの社会状況 (マレーシア)
- ⑧永遠のエジプト (エジプト)

日本語・日本事情

ここで言う日本語・日本事情は、学部留学生のために行われている授業科目のことである。学部留学生は基本的に高度の日本語能力を持って入学してくるが、その能力でも日本語で行われる講義を聞くのに十分とはかぎらない。かれらの日本語能力をさらに高めるためのものとして、日本語の授業が開設されている。また日本に関する諸事情を学ぶための授業として、日本事情が開設されている。

日本語・日本事情が本学において、最初に正式に開設されたのは昭和60年度である。当時の教養部において1年次生を対象に始められた。

正式に開設されたのはこの時であるが、前年の昭和59年度から、単位を伴う公式のものではない形で、日本語・日本事情の授業は行われていた。それを担当したのは野中成夫教官である。その後昭和60年度からは、正規の教養部の授業として、日本語・日本事情が開設された。

日本語・日本事情の授業が初めて行われたそのころは、本学においても外国人留学生が増え始めていた時期であった。『信州大学教養部二十年史』（平成元年12月発行）によると、教養部教育課程委員会の審議事項として、昭和55年3月10日の項に「中国人留学生（女子）が1名入学予定（繊維学部繊維工学科）」、同年4月8日の項には「外国人留学生について（中国から2名理学部化学科と繊維学部繊維工学科へ）」とある。また次の年、昭和56年4月7日の項に「外国人留学生について（モンゴル・中国から各2名入学）」とある。これが『信州大学教養部二十年史』に見られる、外国人留学生についての記録の最初である。このころ以後、学部留学生が増加を始めたのである。（なお上記の記録は、学部1年に最初に入学した外国人留学生が上記の者であることを意味するわけではない。あくまで記録に見られる最初である）

日本語・日本事情に関する概算要求も課題となっていた。『信州大学教養部二十年史』によると、教養部総務委員会の審議事項として、昭和58年11月21日の項に「『日本語・日本事情』（60年度概算要求）に関する資料の検討及び今後の方向」、同年12月21日の項に「『日本語・日本事情』（60年度概算要求）について（学科目増設に関し検討）」とある。これが同書に見られる、日本語・日本事情の概算要求に関する記事である。

概算要求はその後認められ（当時、留学生関係の概算要求は通りやすかったと言う）、昭和60年度の途中に専任の教官が着任することとなる。それに先だって、日本語・日本事情の授業は、昭和60年度の始めから正規に開講された。

教養部の昭和60年度『履修解説』によると、次のごとくである。

区 分	授 業 科 目	担当教官	期	毎週コマ数	規定単位数	対象学生
（空欄）	日本語・日本事情演習	野中成夫	通年	1	2	外国人留学生

これに注釈を加える。担当の野中教官は当時の教養部の教官であるが、外国語分野ドイツ語であった。現在は工学部所属であり、同時に副学長である。上記の表の期は通年となっている。当時の授業はほとんどが通年であった。このようにして始められ、その後、年度途中の9月1日に、日本語・日本事情の専任である今井敬子教官が着任し、野中教官から担当を引き継いだ。

この授業の単位は、外国語科目の単位に振り替えることができるとされた。後にこれは外国語科目・一般教養科目の単位に振り替えることができるとされるようになるが、単位振り替えについては、学部により、また年度により扱いが異なる。

こうして始まった日本語・日本事情は、現在まで継続して実施されてきている。教養部があった時代は教養部の授業として行われ、教養部がなくなってからは共通教育センターの授業として行われている。基本的に1年次の学生が受講するが、2年次以降での受講も可能である。

日本語・日本事情専任の教官が着任して以後の昭和61年度からは、開講授業数も増えた。昭和61年度の日本語・日本事情は、次のとおりである。

区 分	授業科目	担当教官	期	毎週コマ数	規定単位数	対象学生
日本語・日本事情	日本語Ⅰ	今井敬子	通年	1	2	外国人留学生
	日本語Ⅱ	今井敬子	通年	1	2	外国人留学生
	日本事情	今井敬子他	通年	1	4	外国人留学生

上記の表で、日本事情の担当教官は今井敬子他となっている。これは今井教官以外も授業をするということであるが、文化系・理科系を含めたいろんな専門分野の教官10名（教養部教官9名、教養部以外1名）に協力を仰ぎ、それぞれの専門に基づいて1回～2回の講義を担当してもらうというものであった。日本事情は次年度以後もこの方式が続けられた。このようにして各1コマずつ、計3コマの日本語・日本事情が開講された。

昭和62年度は、昭和61年度と同じであった。

昭和63年度には日本語Ⅰを週2回開講した。学生はいずれか1つの時間帯の授業に出ることとした。また授業内容を、日本語Ⅰは「読解力と聴解力の養成」、日本語Ⅱは「受講生がテーマを設定してする口頭発表および文章表現の訓練」とした。

平成元年度は昭和63年度と同じであった。

平成2年度には日本語・日本事情の教官が2名に増員され、4月1日に坂井厚子教官が着任した。それに伴い開講時間数も多くなり、次のようになった。

区 分	授業科目	担当教官	期	毎週コマ数	規定単位数	対象学生
日本語・日本事情	日本語Ⅰ	今井敬子 坂井厚子	通年	1	2	外国人留学生
	日本語Ⅱ	今井敬子 坂井厚子	通年	1	2	外国人留学生
	日本事情Ⅰ	今井敬子 坂井厚子他	通年	1	4	外国人留学生
	日本事情Ⅱ	今井敬子 坂井厚子他	通年	1	4	外国人留学生
	日本事情Ⅲ	今井敬子 坂井厚子	通年	1	4	外国人留学生

日本語Ⅰの内容は「読解および構文理解」、日本語Ⅱの内容は「表現力の養成」とされた。日本語Ⅰは週2回、日本語Ⅱは週3回の開講となり、学生はいずれか1つの時間帯の授業に出ることとした。日本事情Ⅰと日本事情Ⅱはそれまでの日本事情と同じく、多数の教官から講義をしてもらう方式であり、それぞれ7名ずつの教官の協力を仰いでいる。日本事情Ⅲは日本語・日本事情の教官のみが行うものであった。授業内容については、日本事情Ⅰと日本事情Ⅲは文化系中心、日本事情Ⅱは理科系中心の内容であった。

平成3年度・平成4年度は、平成2年度と同じであった。

平成4年10月1日には、今井教官の異動に伴い上條厚教官が着任し、今井教官の分を引き継いだ。

平成5年度は次のごとくとなった。

区 分	授業科目	担当教官	期	毎週コマ数	規定単位数	対象学生
日本語・日本事情	日本語Ⅰ	上條 厚	通年	1	2	外国人留学生
	日本語Ⅱ	上條 厚 坂井厚子	通年	1	2	外国人留学生
	日本事情Ⅰ	坂井厚子他	通年	1	4	外国人留学生
	日本事情Ⅱ	上條 厚他	通年	1	4	外国人留学生
	日本事情Ⅲ	坂井厚子	通年	1	4	外国人留学生

授業の内容は基本的に前年度までと同じである。日本語Ⅰは週3回の開講となった。

平成6年度からは教養部全体の授業内容が大きく改変された。それぞれの授業の開講期間は、可能な限り半期（前期か後期）とすることになった。それに伴い日本語・日本事情は全て半期となった。同時に授業の名称も変更され、名称から授業内容を類推できるようなものとした。平成6年度は次のとおりである。

区 分	授業科目	授 業 題 目 名	担当教官	期	毎 週 コマ数	規 定 単位数	対象学生
日本語・ 日本事情	日本語	日本語(読解中心)Ⅰ	上條 厚	前期	1	1	外国人 留学生
		日本語(表現中心)Ⅰ	上條 厚 徳井厚子	前期	1	1	外国人 留学生
	日本事情	日本事情 (社会と人間基礎編)	徳井厚子	前期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (日本の伝統文化)	徳井厚子	前期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (自然環境と人間)	上條 厚他	前期	1	2	外国人 留学生
	日本語	日本語(読解中心)Ⅱ	上條 厚	後期	1	1	外国人 留学生
		日本語(表現中心)Ⅱ	上條 厚 徳井厚子	後期	1	1	外国人 留学生
	日本事情	日本事情 (社会と人間講義編)	徳井厚子他	後期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (日本の現代文化)	徳井厚子	後期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (長野県自然環境と人間)	上條 厚他	後期	1	2	外国人 留学生

上記の徳井厚子教官は、坂井教官が婚姻により改姓したものである。これまでの授業はそれぞれが前期・後期に分割され、次のように変わった。

日本語Ⅰ → 日本語(読解中心)Ⅰ・日本語(読解中心)Ⅱ
 日本語Ⅱ → 日本語(表現中心)Ⅰ・日本語(表現中心)Ⅱ

日本事情Ⅰ → 日本事情（社会と人間基礎編）・日本事情（社会と人間講義編）
日本事情Ⅱ → 日本事情（自然環境と人間）・日本事情（長野県の自然環境と人間）
日本事情Ⅲ → 日本事情（日本の伝統文化）・日本事情（日本の現代文化）

日本語（読解中心）Ⅰ・日本語（表現中心）Ⅰ・日本語（読解中心）Ⅱ・日本語（表現中心）Ⅱは、それぞれ週3回ずつの開講であった。日本事情（自然環境と人間）・日本事情（社会と人間講義編）・日本事情（長野県の自然環境と人間）は、複数の教官に協力を仰ぐものであるが、それぞれ3名・6名・3名に協力してもらっている。

平成7年度は、教養部が平成6年度末をもって廃止されたことに伴い、それまで教養部が行ってきた授業を、共通教育センターがすることとなった年である。日本語・日本事情も共通教育センターの授業となった。ただし授業内容等に特別な変化はなかった。教養部廃止に伴い、上條教官と徳井教官は教育学部の所属となったが、日本語・日本事情の担当はそれまでどおりに行った。授業の名称変更があり、次のようになった。

日本事情（日本の伝統文化） → 日本事情（日本の文化Ⅰ）
日本事情（日本の現代文化） → 日本事情（日本の文化Ⅱ）
日本事情（社会と人間講義編） → 日本事情（社会と人間応用編）

日本語（読解中心）Ⅰ・日本語（読解中心）Ⅱは、週2回ずつの開講となった。

平成8年度も授業内容等に特別な変化はなかった。授業の名称変更が若干あり、次のようになった。

日本事情（社会と人間基礎編） → 日本事情（社会と人間（基礎））
日本事情（社会と人間応用編） → 日本事情（社会と人間（応用））

日本語（読解中心）Ⅱは、週1回の開講となった。

平成9年度・平成10年度・平成11年度は、平成8年度と同じであった。

留学生センターが平成11年4月に省令施設として設置されたが、平成11年度の日本語・日本事情については、従前との変化は何もなく行われた。留学生センター設置とともに、それまで教育学部所属であった上條教官は留学生センター所属となり、同じく教育学部所属の徳井教官は教育学部に留どまったが、平成11年度の授業担当はそれまでと変化なく行われた。

平成12年度には授業担当の変更があった。次のとおりとなった。

区 分	授業科目	授 業 題 目 名	担当教官	期	毎 週 コマ数	規 定 単位数	対象学生
日本語・ 日本事情	日本語	日本語(読解中心)Ⅰ	上條 厚	前期	1	1	外国人 留学生
		日本語(表現中心)Ⅰ	上條 厚 佐藤友則	前期	1	1	外国人 留学生
	日本事情	日本事情 (社会と人間基礎編)	村田 明	前期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (日本の伝統文化)	村田 明	前期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (自然環境と人間)	上條 厚他	前期	1	2	外国人 留学生
	日本語	日本語(読解中心)Ⅱ	上條 厚	後期	1	1	外国人 留学生
		日本語(表現中心)Ⅱ	上條 厚 佐藤友則	後期	1	1	外国人 留学生
	日本事情	日本事情 (社会と人間講義編)	村田 明他	後期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (日本の現代文化)	村田 明	後期	1	2	外国人 留学生
		日本事情 (長野県自然環境と人間)	上條 厚他	後期	1	2	外国人 留学生

上記のように、これまで徳井教官が担当していた分を、村田明教官と佐藤友則教官が引き継いだ。日本語(読解中心)Ⅱは、週2回開講されるようになった。このように変更され、現在に至っている。

日本語補講

外国人留学生の中で大学院生および研究生は、入学時に日本語能力が低いことが多い。そうした学生たちの中には日本語の学習を希望する人がいる。そのために日本語の授業が開設されている。それは単位を伴わない日本語補講として行われている。本学は4つの地区に分かれており、日本語補講の開講はそれぞれの地区でなされてきた。

昨年度(平成11年度)は次のように行われた。

地区	コース	曜日	時 間 帯	担当者
松本	初級	月・木	13:00~15:00	合津 美穂
	中級	火・金	13:00~15:00	青柳にし紀
長野	初級	月・木	10:00~12:00	村山 啓子
	中級	火・金	13:00~15:00	村山 啓子
上田	初級	月・木	10:00~12:00	村山 啓子
	中級	火・金	13:00~15:00	村山 啓子
伊那	初級	月・木	13:00~15:00	山本もと子
	中級	火・金	13:00~15:00	中村 純子

期 間	7月21日～8月10日、9月1日～3月24日
-----	------------------------

上記のように、各地区2クラスずつ、週2回の開講である。なお伊那地区は、前年の平成10年度は初級1クラスのみを開講であった。1クラスのみで、受講者の日本語の水準に違いが大きいため、2つに分けて授業を行っていた。平成11年度は上記のように、伊那地区も2クラスの開講となった。ただし前年の受講者の多くが中級に上がったため、水準の違いが引き続き、中級を2つに分けて授業をした。

平成11年度は開始の期日が7月下旬と、大分遅い時期となっている。例年はもっと早く開始されている。平成11年度での開始が遅れたのは、平成11年4月に留学生センターが発足し、それに関連しての事務上の諸事情があり、遅くなったものである。

上記担当者は全て謝金講師である。

毎年、日本語補講では、開講式と閉講式を行っている。また開講に先立ちクラス分け試験をしている。それは筆記試験の場合もあれば、簡単な面接の場合もある。出席状況が良好である学生には修了証書を発行している。開講の期間については、配分される予算によって決まるという事情がある。担当者が謝金講師であるため、予算によって開講回数が決まるからである。そのため、これまで年度ごとに開講期間の伸縮があった。

授業の曜日・時間帯は、諸般の都合を勘案して、当初の計画から変更することがある。平成11年度も、上記のものから部分的に変更されている。

受講学生の中に初級と中級の両方に出席を希望する学生もあり、担当者が可能と判断した場合には許可している。研究生は来日時期が一定しているとは限らないため、開講期間の中途から入学を希望する場合もある。受講が可能と認めれば、許可している。単位を伴わない授業であるため、また研究等で忙しいため、欠席がちとなる学生も多い。

平成12年度の日本語補講は、配分予算の関係により、松本地区は留学生センターの専任教官がすることとなった。他地区はこれまでどおり謝金講師が担当である。次のように計画された。(現在実施途中である)

地区	コース	曜日	時 間 帯	担 当 者	
				前 期	後 期
松本	初級	月	14：10～16：10	佐藤 友則	藤沢 文人
		木	15：20～16：50		
	中級	火	17：00～18：30	村田 明	上條 厚
		金	15：20～16：50		
長野	初級	月・木	10：00～12：00	村山 啓子	
	中級	月・木	13：00～15：00	村山 啓子	
上田	初級	火・金	10：00～12：00	村山 啓子	
	中級	火・金	13：00～15：00	村山 啓子	
伊那	初級	火・木	14：00～16：00	青柳にし紀	
	中級	火・金	14：00～16：00	山本もと子	

期 間	前 期	後 期
	5月15日～7月21日	10月23日～1月19日

松本地区の授業は学部等の授業と同じように、1コマを90分として行っている。開講の曜日・時間帯および開講期間が流動的であることは、これまでと変わらない。

相 談 ・ 指 導 業 務

1. はじめに

信州大学留学生センターは、平成11年4月に設置された。教官数は当初2名であったが、同年6月に教官2名が採用され、平成12年4月にはさらに教官1名が加わり、現在では、センター長以下、教官5名の陣容となっている。

留学生センターの施設は、発足当初は、仮住まいを余儀なくされ、事務室は学生部内で、教官室もあちこちの空き部屋を使用させられる状況であった。平成11年12月に、ようやく共通教育棟2階に留学生センターが開所され、留学生課の事務室はもとより、全教官室、2つの演習室、および学生相談室が集合して設けられることになった。留学生のデリケートな内面を扱う指導・相談業務担当者の立場からは、留学生センターとしての機能がやっと充実した開所時のこの時をもって、名実ともに留学生センターが発足したという感が強い。

2. 信州大学留学生センターの相談・指導業務の特色

信州大学は、5キャンパスに8学部が存在するという、いわゆる、たこ足大学である。そして、各キャンパスは、広い県内にそれぞれが遠く離れて存在している。そのため、4学部を有し、大学の本部がある旭キャンパス（松本市）以外の各キャンパスでは、それぞれの一つの学部がその土地での信州大学として存在している。例えば、常田キャンパス（上田市）にある繊維学部へ行こうと駅からタクシーに乗る時、「繊維学部まで」と言っでは通じず、「信州大学まで」と言わなければならない。各キャンパスは、それぞれの所在地で、信州大学の1学部としてでなく、独立した単科大学（名称は何れも信州大学）として存在しているごとく雰囲気が異なる。

このような‘たこ足大学’なるがゆえに、遠隔会議システムが早くから発達しており、その方面では先駆的な存在ではあるが、こと相談・指導業務となると、当然のことながら、そういった遠隔会議よりはるかにデリケートな対応が求められる。留学生センターにも、内線電話を利用した専用のテレビ電話を設置し、有効利用を図っているが、やはり基本は、対面しての相談・指導である。そこで、留学生センターでは、センター教官が、月に一回、旭キャンパス（松本市）以外の各キャンパスに出向き、相談・指導業務を行っている。

当センターでは、5教官全てが、日本語教育も相談・指導業務も担当することになっているが、精神科医師である村瀬教官が、相談・指導業務の責任者として、特に困難なケースを含む相談・指導業務の全てにおいて、指導的役割を担っている。表1に、平成12年度の訪問相談・指導業務のスケジュールを示す。

表1 平成12年度 各学部訪問スケジュール

	教育学部／工学部	農 学 部	繊 維 学 部
4 月	上 條	村 瀬	村 瀬
5 月	村 瀬	村 瀬	藤 沢
6 月	村 瀬	藤 沢	村 瀬
7 月	藤 沢	村 瀬	村 瀬
8 月	村 瀬	村 瀬	村 田
9 月	村 瀬	上 條	村 瀬
10 月	佐 藤	村 瀬	村 瀬
11 月	村 瀬	村 瀬	佐 藤
12 月	村 瀬	村 田	村 瀬
1 月	村 田	村 瀬	村 瀬
2 月	村 瀬	村 瀬	上 條
3 月	村 瀬	佐 藤	村 瀬

3. 留学生に対する相談・指導業務の実態

○大学本部、および留学生センターや4学部のある松本市旭キャンパス

・留学生センター

5 教官それぞれが、週に 5 日、オフィスアワーを担当している（表 2）。しかし、実際には、オフィスアワーだけに限らず、随時相談に応じている。対象は、旭キャンパスの留学生にとどまらず、信州大学に在籍する全ての留学生およびその関係者である。

表 2 留学生センター教官オフィスアワー一覧表

Office hours for general advising, Japanese language clinic
and mental health consultation

月曜日 Mon. 2 時限目 10:40~12:10	村田 明 Murata Akira	☎0263-37-3226 内線 811-7326 amurata@gipac.shinshu-u.ac.jp
火曜日 Tues. 2 時限目 10:40~12:10	村瀬さな子 Murase Sanako	☎0263-37-3224 内線 811-7324 muras-s@gipac.shinshu-u.ac.jp
水曜日 Wed. 2 時限目 10:40~12:10	藤沢 文人 Fujisawa Fumito	☎0263-37-3128 内線 811-7328 ffumito@gipac.shinshu-u.ac.jp
木曜日 Thur. 2 時限目 10:40~12:10	佐藤 友則 Sato Tomonori	☎0263-37-3227 内線 811-7327 tomo@gipac.shinshu-u.ac.jp
金曜日 Fri. 3 時限目 13:00~14:30	上條 厚 Kamijo Atsushi	☎0263-37-3225 内線 811-7325 kamij-a@gipac.shinshu-u.ac.jp

利用方法：電話やE-mailなどで予約をするか、教官室へ直接来室して下さい。

How to use: Please visit the office directly, or make an appointment.

秘密は厳守されます。 Confidentiality is guaranteed.

・人文学部：坂口留学生専門教育担当教官による相談・指導業務。

留学生数；19名（平成12年5月現在）

・経済学部：秋庭留学生専門教育担当教官による相談・指導業務。

留学生数；84名（平成12年5月現在）

・理 学 部：留学生専門教育担当教官が配属されていない学部。

留学生数；13名（平成12年5月現在）

・医 学 部：牧留学生専門教育担当教官による相談・指導業務。

留学生数；44名（平成12年5月現在）

○それ以外の4キャンパス

これまでは、留学生専門教育担当教官が配属されていないのに留学生数が相当数ある学部（農学部）や日本人の留学生専門教育担当教官配属のない学部（繊維学部）では、各キャンパスの保健婦が、留学生の精神保健その他、相談・指導の中心的役割を担っていた。

前述の留学生センター教官による、松本市旭キャンパス以外の4キャンパス訪問相談・指導業務のうち、全体の3分の2に当たる村瀬教官の担当分は、主に、保健室とタイアップしての相談・指導業務である。その他の4教官の訪問相談・指導業務は、日本語および日本事情教育指導を通じての、相談・指導業務である。

・農 学 部：留学生専門教育担当教官が配属されていない学部。

- 留学生数；28名（平成12年5月現在）
- ・繊維学部：鮑留学生専門教育担当教官による相談・指導業務。
留学生数；39名（平成12年5月現在）
- ・工 学 部：高野留学生専門教育担当教官による相談・指導業務。
留学生数；73名（平成12年5月現在）
- ・教育学部：留学生専門教育担当教官が配属されていない学部。
留学生数；15名（平成12年5月現在）

*教育学部（西長野キャンパス）と多数の留学生が在籍する工学部（若里キャンパス）では、ボランティアの日本語教師（英語教師でもある）北澤勝親先生の尽力に負うところが大きい。氏は、連日、両キャンパスを交互に訪問し、終日、希望者に日本語指導を行い、必要ならば相談にも応じておられる。そのため、学生達の信頼は絶大である。

4. 留学生センター日本語研修コース

留学生センター日本語研修コースは、平成11年10月より開始された。センター教官の他に、平成11年度は非常勤講師3名、平成12年度には、新たに1名加わり非常勤講師4名となり。日本語指導をしているが、同時に、留学生の相談・指導業務も頻繁に行われている。

第一期生（平成11年10月～平成12年3月）は女性2名（中国とブラジルから1名ずつ）であった。日本語文法に強い者と、既に日本語がかなり喋れる者のコンビで、互いに補い合いながら勉学に励み、半年間のコースのうち前半3ヶ月間は、まだセンターの建物がなく仮住まいを余儀なくされている状況であったが、学生数の3～4倍も教師がいるという恵まれた環境もあって、特別重篤な問題も生じず、無事研修コースを終えることができた。

第二期生（平成12年4月～平成12年9月）は、男性6名（イラン2名、バーレーン、エジプト、マレーシア、ネパール）と女性2名（ブラジル、ベラルーシ）の計8名であった。二期生はイスラム圏からの学生が多く、文化の違いから来るトラブルも多くみられた。文字通り日本語が全くできず、しかも英語すら媒介語として使えないという困難なケースもあったが、学生らの努力により、日本語をかなり習得してコースを終了することができた。

留学生センターの日本語研修コースが始まったことで、留学生センターに所属する留学生が在籍するようになり、当然ながら、相談・指導件数が大幅に増加した。

5. 相談・指導の概況

○相談・指導の件数

留学生センターの教官および非常勤講師が、平成11年10月～平成12年9月の間に扱った相談・指導件数を以下に示す。

表 3

（平成11年10月～平成12年9月）

項 目	研修コース 留学生件数	その他の全 留学生件数	項 目	研修コース 留学生件数	その他の全 留学生件数
a. 修学関係	80	30	g. 家 庭	16	6
b. 学内諸手続き	5	0	h. 健康・医療	23	17
c. 来日・滞在	13	0	i. 交 流	39	40
d. 経済問題	0	10	j. 事故・事件	0	2
e. 宿舎探し	6	5	k. そ の 他	6	3
f. 人間関係	25	39			

* 注意点：件数の数え方、および、内容の解釈が、教官により若干異なる。また、留学生センターが行う補講での相談・指導件数は、この中に含まれていない。

○相談・指導の内容

相談内容の分類方法はいろいろあろうが、ここでは、一応、以下のように分類した。

- a. 修学関係（勉学／日本語学習／学位／就職などの進路／その他）
- b. 学内諸手続き（学費減免／奨学金申請／その他）
- c. 来日・滞在（入国／在留／その他）
- d. 経済問題（奨学金／アルバイト／学費／生活費／その他）
- e. 宿舎探し（学寮／民間寮／アパート／ホームステイ／入居保証／その他）
- f. 人間関係（研究室留学生／研究室日本人学生／研究室教官／事務／アルバイト先／異性／親族／家主／近隣／その他）
- g. 家庭（夫婦／家事／育児／教育／その他）
- h. 健康・医療（体の不調／医療機関への受診／国保／留学生医療補助／入退院／その他）
- i. 交流（チューター／交流／イベント等／ボランティア／雑談など親しい関わり／その他）
- j. 事故・事件（交通事故／遺失／その他）
- k. その他

6. その他

○ テレビ電話

信州大学では、いわゆる‘たこ足大学’であるために、相談ないし交流の目的で、内線電話専用のテレビ電話も活用している。信州大学全体としては、留学生数は340名程度いるが、本部のある松本市旭キャンパス以外のキャンパスでは、留学生数がそれほど多くない。そのため、他キャンパスの留学生達は、もっと多くの留学生と交流したいという要望が常にある。また、たとえ旭キャンパス（松本市）に所属していても、他のキャンパスにしか同国人がいないこともあり、そういう学生達にとって、テレビ電話で初対面の者同士が打ち解けられることの意義は大きい。

さらに、離れたキャンパスの留学生の表情を見ながら面接することは、何よりも有効で、信州大学では、そのたこ足大学なる特殊事情ゆえに、かえって時代を先取りすることとなった留学生テレビ電話利用システムを使用することで、時間や距離のハンディキャップを補っている。

7. まとめ

信州大学は、5キャンパスに8学部が存在する、‘たこ足大学’であるが、留学生センターでは、センター教官が各キャンパスを月に1回訪問したり、他大学に先駆けてテレビ電話を活用するなどして、とかく疎遠になりがちな、各キャンパスの留学生に対し、相談・指導業務を行っている。非常勤講師を含む留学生センター全教官が、日本語指導に加えて相談・指導業務をこなすことで、留学生の多様なニーズに対応できる支援体制を図っている。

また、連絡会を開催して、普段から、留学生センター教官と留学生専門教育担当教官、留学生関連委員会の教官等との、よき協力関係に努めている。こうして、留学生の存在を重要ならしめ、留学生を大学全体が支える協力体制を築きつつある。

‘たこ足大学’なるが故に、とかく横（学部間）のつながりが希薄であった大学を、留学生センターをかなめに、大学全体に相互に協力体制が構築されていくことは、信州大学にとっても、将来的に非常に有益なことであると考えられる。

相談・指導件数が、業務の活動の一つの尺度であることは間違いない。しかしながら、同じ一件と言っても、内容的には、天と地ほどの差があることもある。また、非常に困難な事例を、事も無げに解決できる者もいれば、何でもない事例を、かえって大事（おおごと）にしてしまう者もいる。これまでに、

放っておけば、訴訟や事件、事故につながったろうと思われる深刻な事例も何件かみられたが、何れも、事なきを得ている。幸い、当留学生センターには、相談・指導業務に、その道のプロたる精神科医がいる。留学生センターに、精神科医の必要性の是非はともかく、少なくとも、困難な事例に、多くの関係者を四苦八苦させるような苦労はかけずに済みそうである。

活 動 記 録

○留学生ガイダンス

平成11年度留学生ガイダンス：4月5日松本国際交流会館研修室で行った。

次 第

1. 開 会（センター係長）
2. センター長あいさつ（内藤）
3. 出席者の紹介（留学生係長）
4. 説 明 会
 - 留学生センターについて（内藤）
 - カリキュラム（日本語・日本事情）について（上條）
 - 事務連絡
5. 質疑応答
6. 閉 会（センター係長）

平成12年度留学生ガイダンス：4月5日共通教育棟42番教室で行った。

次 第

1. 留学生センター長挨拶（内藤）
2. 共通教育センター長挨拶（野中）
3. 保健管理センター所長挨拶（進藤）挨拶
4. 出席者紹介 センター教官・学部留学生担当教官（牧，坂口，秋庭）
 - 留学生課留学生センター事務員
5. 健康相談について（保健管理センター 進藤・小林）別紙2
6. 図書館の利用について（桃井）
7. 外国人留学生のための日本語教育プログラムについて（上條）
8. 留学生生活と留学生相談について（村瀬）
9. 地震のしおり（佐藤）
10. 留学生会の話
11. 諸手続き及び奨学金，宿舎について（藤本）
12. 生協案内
- コーヒーブレイク
13. 留学生センター施設案内

○平成11年度～12年度前期信州大学留学生センター活動記録

平成11年4月1日 信州大学留学生センター，省令施設として設置される。

- 4月1日 内藤哲雄，信州大学留学生センター長に着任（人文学部併任）
- 4月1日 教育学部より上條厚教官，人文学部より村田明教官，留学生センターへ配置替え
- 4月7日 平成11年度留学生ガイダンス 第1回留学生センター打合わせ
- 4月20日 平成11年度留学生ガイダンス 第2回留学生センター打合わせ
- 4月26日 平成11年度第1回留学生センター運営委員会
- 6月1日 村瀬さな子教官，留学生指導部門に着任
- 6月1日 佐藤友則教官，日本語教育部門に着任
- 6月2日 平成11年度第1回留学生センター教官会議
- 6月8日 平成11年度第2回留学生センター教官会議
- 6月18日 平成11年度第3回留学生センター教官会議

平成11年 6月24日 第2回留学生センター運営委員会
 6月29日 第4回留学生センター教官会議
 7月21日 平成11年度日本語補講開講式
 7月9日 第5回留学生センター教官会議
 7月13日 平成11年度第1回留学生担当教官連絡会
 7月15日 第3回留学生センター運営委員会
 8月23日 第6回留学生センター教官会議
 9月14日 第7回留学生センター教官会議
 9月21日 第4回留学生センター運営委員会
 9月30日 第8回留学生センター教官会議
 10月4日 平成11年度日本語研修コース（第一期）オリエンテーション
 10月12日 第一期日本語研修コース授業開始
 11月12日 長野県留学生交流推進協議会
 11月15日 第9回留学生センター教官会議
 11月29日 第5回留学生センター運営委員会
 12月2日 「円福友の会」留学生に本を贈る会図書贈呈式
 12月16日 留学生センター開所・長野国際交流会館竣工記念式典
 12月20日 第10回留学生センター教官会議
 12月21日 第2回留学生担当教官連絡会
 平成12年 1月25日 第11回留学生センター教官会議
 2月21日 第12回留学生センター教官会議
 2月26日 第一期日本語研修コース発表会
 3月8日 第6回留学生センター運営委員会
 3月24日 平成11年度日本語補講閉講式
 3月14日 第一期日本語研修コース修了式
 4月1日 藤沢文人教官、日本語教育部門に着任
 4月5日 平成12年度留学生ガイダンス
 4月10日 平成12年度第1回留学生センター教官会議
 4月10日 平成12年度前期日本語研修コース（第二期）オリエンテーション
 4月14日 前期日本語研修コース開講式
 4月17日 前期日本語研修コース授業開始
 4月21日 平成12年度第1回留学生担当教官連絡会
 4月26日 平成12年度第1回留学生センター運営委員会
 4月28日 前期日本語研修コースproject work 松本の町歩き
 5月10日 平成12年度日本語補講開講式
 6月2日 第2回留学生センター教官会議
 6月12日 第2回留学生センター運営委員会
 6月16日 平成12年度信州大学留学生センター留学生実地見学（飛騨高山）
 7月14日 第3回留学生センター教官会議
 7月26日 前期日本語研修コース日本人のお宅訪問
 7月27日 第3回留学生センター運営委員会
 9月19日 前期日本語研修コース発表会
 9月26日 前期日本語研修コース修了式

交 流 事 業

留学生センター教官は共通教育「日本語・日本事情」の授業や隔地の学部訪問を通して、また、各学部の留学生担当教官を介して学部留学生とつながっていますが、その他にも、研修旅行、センター談話室での日常会話等でより深く日本語研修コース留学生も含めた留学生達と会話をを行っています。さらに、留学生センターでは、松本キャンパス近辺の小中学校、市町村さらに留学生支援のボランティア等が主催する留学生との交流事業の仲介役を行っています。

○留学生との交流活動

団 体 名	交 流 活 動 の 名 称
信州大学教育学部附属松本小学校	留学生との交流学习
長野県日中友好協会青年委員会・女性委員会	第37回日中友好キャンプ 友好王国 in 乗鞍高原
松川社会福祉協議会	第6回国際交流
松本留学生応援ファミリーの会	第13回留学生歓迎ふれあいパーティー
梓川村教育委員会	第11回留学生と青少年のつどい

○長野県留学生交流推進協議会

長野県留学生交流推進協議会は、長野県内における留学生の受入れの促進と交流活動推進のために設けられています。信州大学長が会長を務め、県内の大学、高等専門学校及び専門課程を置く専修学校の長、県内の公的機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者によって組織されていて、信州大学学生部留学生課が庶務を行っています。

○第10回留学生日本語スピーチコンテスト

松本東ロータリークラブが事業活動の一つとして留学生の日本語スピーチコンテストを毎年行っています。平成11年11月26日、ホテルブエナビスタにおいて6ヶ国13名の留学生が「もし私が市長なら」、「日本に来て一番感激したこと」、「日本のごみの分別収集についてこう思う」の、三つのテーマでスピーチを行いました。一位は経済学部の方媛さん、二位は医療技術短大のヒー・チン・ピンさん、三位は経済学部ナディーム・カディルさんでした。

○信州の留学生に本を贈る会

藤本幸邦住職が会長を務めておられる円福友の会が、毎年信州で学ぶ留学生から作文を募集して、それを冊子『留学生の思い』にして発行しています。平成11年度は49編の作文が、その1つずつに藤本住職が添えられた懇切丁寧な評とともに掲載されています。また、円福友の会は、信州の留学生に本を贈る会を主催して、毎年、信州の留学生に一万円相当の希望申し込み図書を贈っています。平成11年度は240名の留学生に贈られました。

資 料

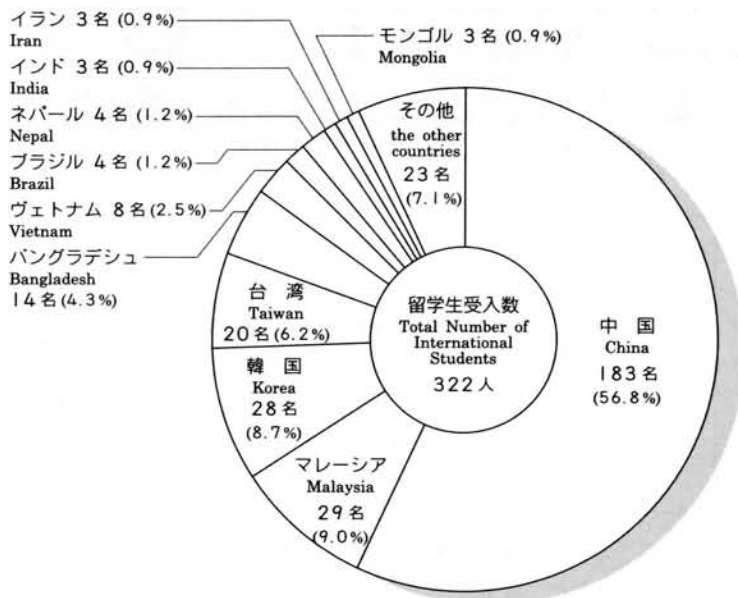
留学生数

平成12. 5. 1 現在
As of May 1. 2000

区 分 Classification		国 費 Japanese Government Scholarship			政 府 Government Scholarship in a Student's Country			私 費 Private Expenses			合 計 Total		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
学部学生 Undergraduate Students	人文学部 Faculty of Arts							3	4	7	3	4	7
	教育学部 Faculty of Education												
	経済学部 Faculty of Economics		1	1				35	42	77	35	43	78
	理 学 部 Faculty of Science								1	1		1	1
	医 学 部 School of Medicine							2	2	4	2	2	4
	工 学 部 Faculty of Engineering		1	1	13	2	15	20	3	23	33	6	39
	農 学 部 Faculty of Agriculture							3		3	3		3
	繊維学部 Faculty of Textile Science and Technology							3		3	3		3
	計 Sub Total		2	2	13	2	15	66	52	118	79	56	135
大学院学生 Graduate Students	人文科学研究科 Division of Arts							1	6	7	1	6	7
	教育学研究科 Division of Education							4	1	5	4	1	5
	経済・社会政策科学研究科 Division of Industrial and Social Studies	1		1				3	2	5	4	2	6
	医学研究科 Division of Medicine	4	2	6				12	13	25	16	15	31
	工学系研究科 Division of Science and Technology	3	4	7				14	7	21	17	11	28
	博士前期課程 Master's Program												
	博士後期課程 Doctor's Program	13	4	17				17	4	21	30	8	38
	農学研究科 Division of Agriculture	2	1	3				7	1	8	9	2	11
	岐阜大連合農学研究科（博士課程） The Joint Graduate School of Agricultural Sciences, with Gifu Univ.	4	2	6				5	2	7	9	4	13
	計 Sub Total	27	13	40				63	36	99	90	49	139
研 究 生 Research Students		7	4	11				16	15	31	23	19	42
聴講生、科目等履修生 Auditors, Credited Auditors								5	1	6	5	1	6
合 計 Total		34	19	53	13	2	15	150	104	254	197	125	322

■国別外国人留学生受入数

Number of International Students by Nationality

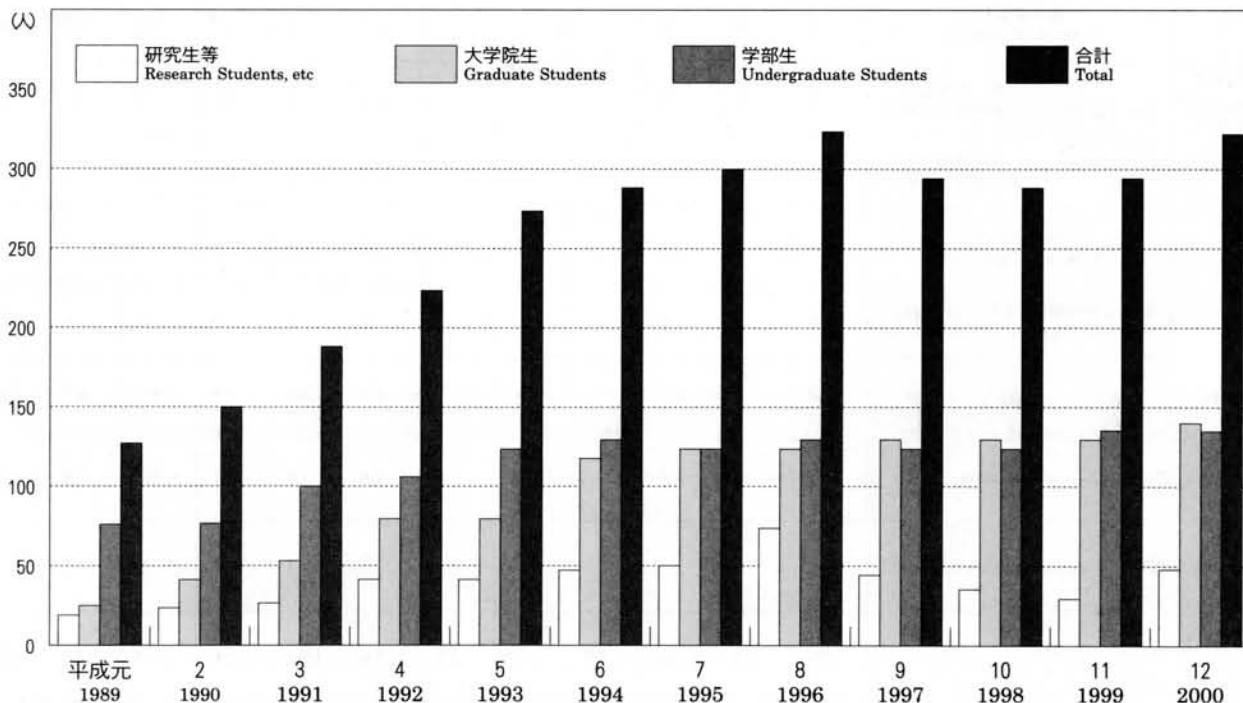


その他の国 23名
the other countries

エジプト 2名	ベラルーシ 1名	インドネシア 1名
Egypt	Belarus	Indonesia
オランダ 2名	カンボディア 1名	ケニア 1名
Holland	Cambodia	Kenya
香港 2名	チェコ 1名	ルーマニア 1名
Hong Kong	Czech	Romania
ミャンマー 2名	エクアドル 1名	サウジアラビア 1名
Myanmar	Ecuador	Saudi Arabia
タイ 2名	ドイツ 1名	スペイン 1名
Thailand	Germany	Spain
バハレーン 1名	ハンガリー 1名	アメリカ 1名
Bahrain	Hungary	United States of America

■信州大学における外国人留学生の受入れ推移

Yearly total of International Students



■外国人留学生年度別受入れ数の推移

各年度5月1日現在

	人文学部	教育学部	経済学部	理 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	繊維学部	教 養 部 留学生センター	計
36						2		1		3
37						3		1		4
38						2		1		3
39						2		1		3
40										0
41		1								1
42		1								1
43		1					1			2
44	2									2
45	2	1								3
46		1								1
47		1								1
48		2								2
49					1	1				2
50		1						2		3
51	1	1				1	1	2		6
52		1				1				2
53		2								2
54		1			2					3
55			1	1	5	2		4		13
56		1	1	1	5	3		6		17
57	1	2	1	2	7	1	1	11		26
58			3	2	9	4	1	16		35
59		1	2		8	6	3	19		39
60	2	1	4	1	9	9	5	15		46
61	4		10	3	14	15	4	12		62
62	9	3	23	2	12	17	6	13		85
63	13	4	36	2	15	15	9	10		104
1	18	3	47	2	16	15	10	12		123
2	18	6	53	4	20	26	9	11		147
3	23	11	55	4	20	41	15	14		183
4	25	16	56	8	31	48	22	15	1	222
5	26	24	64	11	41	38	20	42	3	269
6	31	24	68	12	45	41	18	39	2	280
7	39	21	69	15	46	53	30	26		299
8	41	22	73	11	44	58	31	45		325
9	44	16	73	7	36	54	33	35		298
10	37	13	77	9	33	52	33	36		290
11	30	12	86	9	31	58	30	37		293
12	19	15	84	13	44	73	28	39	7	322

— 28 —

■交流協定締結大学一覧

大学間協定 Partnership Agreement Between Universities

平成12. 5. 1 現在
As of May 1, 2000

国名 Countries	大学名 Name of Foreign University or Institute	締結年月日 Date of Agreement
中華人民共和国 China	西南農業大学 Southwest Agricultural University Chongqing, Sishuan	昭和63年 3月23日 March 23, 1988
大韓民国 Korea	江原大学校 Kangwon National University	平成 7年10月 1日 October 1, 1995
アメリカ合衆国 United States of America	ユタ大学 The University of Utah	平成 8年 3月27日 March 27, 1996
中華人民共和国 China	同済大学 Tongji University	平成 8年 5月 1日 May 1, 1996
インド India	インド工科大学マドラス校 Indian Institute of Technology, Madras	平成 8年 8月28日 August 28, 1996
中華人民共和国 China	河北農業大学 Agricultural University of Hebei	平成 8年 9月 1日 September 1, 1996
中華人民共和国 China	河北医科大学 The Hebei Medical University	平成 8年 9月20日 September 20, 1996
タイ国 Thailand	チェンマイ大学 Chiang Mai University	平成 8年12月24日 December 24, 1996
中華人民共和国 China	蘭州大学 Lanzhou University	平成 9年 9月 8日 September 8, 1997
中華人民共和国 China	蘇州大学 Suzhou University	平成 9年11月 4日 November 4, 1997
中華人民共和国 China	太原理工大学 Tai Yuan University of Technology	平成10年 4月15日 April 15, 1998
英 国 United Kingdom	エクセター大学 The University of Exeter	平成10年 6月30日 June 30, 1998
フランス France	ラ・ロッシュェル大学 The University of La Rochelle	平成10年 9月 2日 September 2, 1998
オーストラリア Australia	カーティン工科大学 Curtin University of Technology	平成11年 4月20日 April 20, 1999
オーストラリア Australia	オーストラリア南極研究所 Australian Antarctic Division	平成11年 8月 6日 August 6, 1999
ポーランド共和国 Poland	ビャリストーク大学 University of Bialystok	平成11年 9月 1日 September 1, 1999
英 国 United Kingdom	マンチェスター理工科大学 University of Manchester Institute of Science & Technology	平成11年 9月10日 September 10, 1999
中華人民共和国 China	東華大学 Dong Hua University	平成11年10月 4日 October 4, 1999
インドネシア共和国 Indonesia	プリタハラバン大学 Pelita Harapan University	平成12年 1月31日 January 31, 2000
タイ国 Thailand	カセサート大学 Kasetsart University	平成12年 3月16日 March 16, 2000
中華人民共和国 China	河南農業大学 Henan Agricultural University	平成12年 3月23日 March 23, 2000

学部間協定 Partnership Agreement Between Faculties

平成12. 5. 1 現在
As of May 1, 2000

国名 Countries	大学名 Name of Foreign University or Institute	対応学部 Faculty of our University	締結年月日 Date of Agreement
タイ国 Thailand	チュラロンコン大学医学部 Faculty of Medicine, Chulalongkorn University	医 学 部 School of Medicine	平成 2年 9月17日 September 17, 1990
アメリカ合衆国 United States of America	ノースカロライナ州立大学繊維学部 College of Textile, North Carolina State University	繊維学部 Faculty of Textile Science and Technology	平成 8年 6月 4日 June 4, 1996
中華人民共和国 China	北京大学国際関係学院 School of International Studies in Peking University	経済学部 Faculty of Economics	平成 9年12月24日 December 24, 1997
中華人民共和国 China	北京大学経済学院 School of Economics of Peking University	経済学部 Faculty of Economics	平成10年 2月 9日 February 9, 1998
ドイツ Germany	マンハイム大学 Mannheim University	人文学部 Faculty of Arts	平成11年 3月11日 March 11, 1999
中華人民共和国 China	香港理工大学応用科学及紡織学部 Faculty of Applied Science and Textiles The Hong Kong Polytechnic University	繊維学部 Faculty of Textile Science and Technology	平成11年10月 4日 October 4, 1999

■宿所情報



松本国際交流会館 Matsumoto International House

平成2年6月設置
established in 1990
所在地：松本市元町3-6-7
Address：3-6-7 Motomachi, Matsumoto City



長野国際交流会館 Nagano International House

平成11年4月設置
established in 1999
所在地：長野市若里5-15-6
Address：5-15-6 Wakasato, Nagano City

■建物構造・面積 Structure and Area

松本国際交流会館 Matsumoto International House
鉄筋コンクリート造3階建 2,083㎡
Third-storied reinforced concrete building

長野国際交流会館 Nagano International House
鉄筋コンクリート造4階建 1,091㎡
Fourth-storied reinforced concrete building

室名 Accommodation	面積(㎡) Area per unit		室数 Number of Rooms	
	松本 Matsumoto	長野 Nagano	松本 Matsumoto	長野 Nagano
単身室 Room for Single	16	17	62室	24室
夫婦室 Room for Couple	34	43	2室	4室
家族室 Room for Family	51	56	1室	3室
研修室 Meeting and Reading Room	75	66	1室	1室
研修室(和室) Meeting and Reading Room	24	—	1室	—
図書室 Library	24	—	1室	—
ラウンジ Lounge	23	95	1室	1室
主事室 The Manager's Room	27	—	1室	—
事務室 Office	16	11	1室	1室
管理人室 Caretaker's Room	73	—	1室	—
洗濯室 Laundry Room	12	14	3室	4室

■信州大学留学生センター日本語研修コース(大学院入学前予備教育)修了生名簿

	氏 名	性別	国 名	生年月日	専門教育受入れ大学	指導教官
第1期生 (11年度後期)	NILTA DOS SANTOS DIAS (ニウタ ドス サントス ディアス)	女	ブラジル	1969. 9. 7	山梨大学・教員研修留学 (12. 4～)	進藤 聡彦 加藤 繁美
	劉 麗 君 (リユー リー クン)	女	中 国	1967.10.28	教育学部・教員研修留学 (12. 4～)	山崎 保寿

	氏 名	性別	国 名	生年月日	専門教育受入れ大学	指導教官
第2期生 (12年度前期)	POURESFANDIARY CHAM JAMSHID (フェレスファンディアリ ジャムシード)	男	イ ラ ン	1970. 4.19	繊維学部 (12.10～)	日向 滋
	ABDULLA JABER JAFFAR (ジャベル ジャファ)	男	バハレーン	1974.10.20	山梨大工学部 (12.10～)	沢登 健
	ATTIA WALID ISMAIL (アッテア ワリド イセマイル)	男	エジプト	1969.11. 8	医学部 (12.10～)	小林 茂昭
	PAVLOVA IRINA VALERJEVNA (パブロア イラ)	女	ベラルーシ	1970. 5.31	繊維学部 (12.10～)	小島 峯雄
	CHIN YOON TZE (チン ユンズ)	男	マレーシア	1973.12. 2	工学部 (12.10～)	大下真二郎
	BAGHDADI MORTEZA (バグダディ モルテザ)	男	イ ラ ン	1971. 4. 2	都留文化大学 (12.10～)	鷲 只雄 田中 実
	HARAGUCHI CELINA MAIUMI (ハラグチ セリナ マユミ)	女	ブラジル	1975. 1.15	山梨医科大学 (12.10～)	横田 貞記
	ARYAL UMA KANTA (アリアル ウマ カンタ)	男	ネパール	1972. 4.17	工学系研究科(理学)院生 (12. 4～)	藤山 静雄

信州大学留学生センター規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、信州大学学則（平成7年3月15日信州大学規程第261号）第10条第2項の規程に基づき、信州大学留学生センター（以下「センター」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、信州大学（以下「本学」という。）における外国人留学生に対し日本語等に関する教育を効果的に実施するとともに、外国人留学生及び外国留学を希望する学生に修学上及び生活上の指導助言を一元的に行うことにより、本学における留学生教育の充実及び留学生交流の推進を図ることを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 外国人留学生に対する大学院等への入学前日本語予備教育に関すること。
- 二 外国人留学生に対する日本語及び日本事情の教育に関すること。
- 三 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- 四 外国人留学生と地域社会との交流を推進する各種事業の企業立案、情報収集、提供等に関すること。
- 五 外国留学を希望する本学の学生に対する情報提供及び留学先における修学上及び生活上の指導助言に関すること。
- 六 留学生教育の充実のために必要な調査研究に関すること。
- 七 その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組 織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 留学生センター長（以下「センター長」という。）
- 二 専任教官
- 三 その他必要な職員

(管理委員会)

第5条 センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、信州大学留学生センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

- 2 管理委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、信州大学留学生センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理し、所属職員を監督する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 センター長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生日本語研修コース)

第8条 センターに、外国人留学生に対する日本語予備教育を行うため、外国人留学生日本語研修コースを置く。

- 2 外国人留学生日本語研修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第9条 センターの事務は、学生部留学生課において処理する。

(雑 則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、管理委員会の議を経て、学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 信州大学留学生センター規程（平成9年12月18日信州大学規程第287号）は、廃止する。

信州大学留学生センター管理委員会規程

(平成11年2月19日 信州大学規程第295号)

(趣 旨)

第1条 この規程は、信州大学留学生センター規程（平成11年2月19日信州大学規程第294号）第5条第2項の規程に基づき、信州大学留学生センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 管理委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 信州大学留学生センター（以下「センター」という。）の管理運営の基本方針に関すること。
- 二 留学生センター長候補者の選考に関すること。
- 三 センターの教官の人事に関すること。
- 四 その他センターの管理運営に関する重要事項

(組 織)

第3条 管理委員会は、次の各号に掲げる委員会をもって組織する。

- 一 学 長
 - 二 副 学 長
 - 三 各学部長、附属図書館長及び医学部附属病院長
 - 四 留学生センター長
 - 五 センターの専任教授
 - 六 事務局長
- 2 前条第2号及び第3号に規程する事項を審議する場合にあっては、前項第6号に掲げる委員を除くものとする。

(委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、管理委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(議 事)

第5条 管理委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

- 2 管理委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 管理委員会が必要と認めたときは、管理委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶 務)

第7条 管理委員会の庶務は、学生部留学生課において処理する。

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、管理委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成12年4月24日規程第3号）

この規程は、平成12年4月24日から施行する。

信州大学留学生センター年報 第1号

編集担当者 藤沢文人, 村田 明

平成13年3月 発行

発 行 所 信州大学留学生センター

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL (0263)37-3167

FAX (0263)37-2181

<http://isc.shinshu-u.ac.jp>